

## 東京新聞と JKSK 結結 P のコラボレーションによる連載

「東北復興日記」 (第1回 2012年8月10日～第178回 2016年4月5日)

「東北まだまだ復興日記」

(第179回 2016年4月19日～第203回 2016年12月20日～現在)

### 1、趣旨

第3回 JKSK 車座・交流会(2012, 4, 14～15 於石巻)に於いて、被災現場を視察し、現場で日々闘っておられる人々の話に耳を傾け、被災直後と全く変わらないその復興・復興の現状を目の当たりにした。「この現状を風化させてはならない」「JKSK のみの力では限界があるので、メディアとの連携による継続的発信が不可欠ではないか」という熱い議論が交わされ、東京新聞との意見交換の結果、東京新聞と JKSK 結結 P との連携により、毎週1回、東京新聞朝刊(4面)上に「東北復興日記」の連載が開始されることになった。

### 2、スタートに当たっての誌上「結結プロジェクト座談会」

① 出席者:(アイウエオ順)

大和田順子

(NPO 法人 JKSK 理事・一般社団法人ロハス・ビジネス・アライアンス共同代表)

木全ミツ(NPO 法人 JKSK 理事長)

藺田綾子(NPO 法人 JKSK 理事・JKSK 結結 P 事務局長・クレアン代表取締役)

山田好恵(一ノ蔵 マーケティング室長)

吉田恵美子(NPO 法人ザ・ピープル理事長)

渡辺智恵子(アバンティ社長)

② 座談会 (上)「復興引っ張る女性の力」「政治家頼みの発想はやめなきゃ」

「東北再生は日本の未来つくること」「助けて」声を大にして(2012.7. 25)

座談会 (下)「人がつなぐ確かな希望」「今までにない石巻が生れる」

「いわきに再生エネ発電所を」「復興の今、伝え続ける」(2012.8. 1)

掲載記事(2ページ)(写真とコメント)

### 3、掲載記事

2012年(8月10日(第1回)～12月28日)

1「みなと土に触れ 励みに」吉田恵美子(NPO 法人ピープル理事長)

2「被ばくの不安 安らげる」吉田恵美子

3「自然エネの街灯ともし」吉田恵美子

4「アジアの学生と交流」大和田順子(JKSK 理事)

5「生涯かけ 子ども支援」山田好恵(「一ノ蔵」マーケティング室長)

6「ともに歩む」プチ市民「」藤間千尋(石巻災害復興支援協議会渉外広報室室長)

7「ふるさと再生へ動き」藤間千尋

8「記憶よみがえる“きりこ”」宮川舞(南三陸町産業振興課商工観光振興係主査)

9「太陽光に希望を託す」大和田順子

10「復興市…未来へバトン」宮川 舞

11「南三陸再生見届けて」宮川舞

12「未来志向の思い共有」藺田綾子

(クレアン社長・NPO 法人 JKSK 結結プロジェクト事務局長)

13「稲を刈り“ほよ”作る」山ノ川実夏

(MS&MD インシュアランスグループホールディングス総務部課長)

14「渡り鳥と農業の共存」山田好恵

15「話す場で絆を育む」小玉順子(NPO 法人おおさき地域創造研究会事務局長)

16「自然の営みから学ぶ」若見朝子(大崎自然界部部長)

17「繊維産業の再興目指す」渡辺智恵子(アバンティ代表取締役社長)

18「コットンベイク迎えにきて」吉田恵美子

19「子供が里山サバイバル」太田美智子(東日本大震災圏域創生 NPOセンター事務局長)

20「空から町づくり探る」藺田綾子

2013年(1月5日～12月27日)

22「全て受入れ“幸せ”を」高村美香(花と希望を育てる会代表)

23「日常失った 子ども支え」今村久美(NPO 法人カタリバ代表理事)

24「来月、福島を世界へ」吉田恵美子

25「南相馬支える人材育成」大和田順子

26「安心安全 お酒で味わって」山田好恵

27「巻き込まれる人 歓迎」藤間千尋  
28「福島への期待ドイツでも」菅野友美(有・木紅木オーガニック企画マネージャー)  
29「障害者とビジネス案」藺田綾子  
30「日本の底力を見せよう」山田好恵  
31「特産品に温かい言葉」高村美春  
32「綿花栽培 2 年目始動」吉田恵美子  
33「沿岸復興 住民主体で」細田幸恵(わたりグリーンベルト P 事務局)  
34「未来のため 仲間と共に」川西由美子(ランスタッド EAP 総研所長)  
35「地域再生の夢 見に来て」宮川舞  
36「気になる二つのギャップ」河口真理子(大和総研調査本部主任研究員)  
37「つぼトントン 心のケア」溝口あゆか(心理カウンセラーセラピスト)  
38「青空市から起業支援」小野寺美厚(NPO 法人ネットワークオレンジ理事長)  
39「仙台・山手に残る爪痕」中西百合(仙台市経済局産業振興課創造産業係長)  
40「体験カフェ 来月開店」佐藤真紀(カフェつぶっこ オーナー店長)  
41「“こども塾”のびのび冒険」渡辺智恵子  
42「福島へ通い 土に触れる」伊藤陽子(ヨウデザイン代表)  
43「“こども王国”自立への道」太田美智子  
(東日本大震災圏域創生 NPO センター事務局長)  
44「泥んこで田植体験」大和田順子  
45「自立への事業目指す」郡司真弓(NPO 法人ふくしま支援・人と文化ネットワーク事務局)  
46「いわきで“オンパク”再び」菅野友美  
47「お母さんから元気に」番場さち子(番場ゼミナール/ベテランママの会主宰)  
48「育てた綿 T シャツに」菅野友美  
49「農業再開へ 手づくり農園」広畑裕子(こどもと一緒にの会事務局)  
50「旅館ロビーが交流の場」吉田恵美子  
51「心のケア 継続支援を」山田好恵  
52「故郷の絵 パッケージに」細田幸恵  
53「連載 2 年目 気持ち新たに」木全ミツ  
54「人が行き交う農業目指す」熱海和美(よつばファーム)  
55「気仙沼でセラピー研修会」藺田綾子

56「話す中で 気づき合う」小玉順子  
57「海外から復興の助言」河口真理子  
＊(東京新聞社説 2013, 9, 16)「ただそこにいだけで～敬老の日に考える」  
58「地産地消の自然エネ」大和田順子(認定 NPO 法人 JKSK 理事)  
59「防災に女性の視点を」白川由利枝(仙台市市民局次長)  
60「五輪の前に やるべきこと」木全ミツ  
61「福島を変革 伝える旅」吉田恵美子  
62「巨大防潮堤 本当に必要か」大和田順子  
63「支え合う心の伴走車」川西由美子  
64「女性つなぐ車座交流」渡辺ひろみ(男女共同参画財団エル・ソーラ仙台管理事業課長)  
65「未来のまち ジオラマに」太田美智子  
66「“ふゆみずたんぼ”10 周年」山田好恵  
67「高校生とオケがコラボ」吉田恵美子  
68「頼もしい行動力、決断力」梶田恵臣(NPO 法人 JKSK 理事・事務局長)  
69「震災後初 水稻が実った」岡田久典(富岡町アグリ環境協議会会長)  
70「心のツボ刺激 笑顔に」藺田綾子  
71「防潮堤 住民合意に疑問も」大和田順子  
72「南相馬視察 言葉失う」水本江里子(JKSK 結結プロジェクト実行委員)  
**2014 年(1 月 10 日～12 月 26 日)**  
73「自然エネを復興の象徴に」島村守彦  
(いわきおてんと SUN 企業組合コミュニティ電力担当)  
74「キッチンカー 安心も運ぶ」新川幸枝(MOE 南相馬応援エンターテイメント代表)  
75「じゃんがら 途絶えさせねえ」里美喜生(いわき市文化活用実行委員会代表)  
76「産地伝える“食べる情報誌”」高橋博之(NPO 法人東北開墾代表理事)  
77「シラス井販売へ試作中」林節子(相馬双葉漁協鹿島支部女性部長)  
78「何故一票投じないのか」高村美春  
79「“もちわん”で地域に元気」佐藤真紀(カフェつぶっこオーナー店長)  
80「未来の日本の形 ここから」上原望(ランドブレイン(株)地方活性化グループ)  
81「絵を描きながら癒す」藺田綾子  
82「子どもの笑顔ある日常へ」高橋美加子(福島県中小企業家同友会相双地区会長)

83「美しい村 取り戻したい」伊藤博章(NPO 法人みやぎスマートアグリ理事長)  
84「“ふくしま潮目”綿で表現」吉田恵美子(いわきおてんとSUN 企業組合代表)  
85「放射能知識の冊子 ご協力を」番場さち子  
86「防潮堤計画 対話の場を」健太朗(ファシリテーター加生(かしょう))  
87「防潮林再生 住民の力で」松島宏佑(わたりフリーンベルトプロジェクト事務局長)  
88「廃炉への道のり 語り継ぐ」高村美春(原発震災を語り継ぐ会主宰)  
89「高校生が 出来ること」斎木陽平(一般社団法人リビジョン代表理事)  
90「自分を追い詰めないで」相川ふみ(NPO 法人 JKSK 結結プロジェクト事務局)  
91「学んで備える 未来の震災」大和田順子  
92「福島コットン 魅力アピール」伊藤陽子  
93「共感こそが必要な鍵」木田源泰(NPO 法人いわきオリーブプロジェクト理事長)  
94「マンモス防潮堤 話し合う」健太朗  
95「女性の視点で避難所作り」梶田恵臣  
96「心身の健康不安 解決手助け」川西由美子  
97「避難所運営を疑似体験」眞野美加(せんだい防災プロジェクトチーム)  
98「当たり前の日常 みつめ直す」熱海和美(よつばファーム)  
99「防災の教訓 世界に発信」吉田恵美子  
100「未来を一緒に考えて」木全ミツ  
101「東松島の食 共に再発見」太田将司(「東松島食べる通信」編集長)  
102「南相馬市の今を知って」広畑裕子(のらとも農園)  
103「南相馬の伝統 弁当に」大和田遥(南相馬復興大学)  
104「里山カフェ 元気に2年目」佐藤真紀  
105「記念樹から広がる森林再生」鈴木敦子<環境リレーションズ研究所理事長>  
106「地域完結型 熱システム」氏家芙由子(紫波グリーンエネルギー)  
107「カモミールの栽培促進」北條裕子(カミツレ研究所代表取締役)  
108「ナプキンを綿から作る」山本美加(エル・ソーラ仙台管理事業課主任)  
109「多彩な発酵食でお迎え」桜井真理子  
(株・アサーティブ&シーエスフードプロデューサー)  
110「福岡から思いつなげる」矢動丸純子(JKSK 会員)  
111「放射線学ぶ冊子に反響」番場さち子

112「動きだした未来への活動」島村守彦(いわきおてんとSUN 企業組合事務局長)  
113「檜葉の今 目と肌で感じて」新妻英明(いわきおてんとSUN 企業組)  
114「6県から魅力ある商品」齋藤由布子  
(東北ろっけんパーク復興支援グッズ管理アドバイザー)  
115「震災 子どもに伝えたい」小倉千春(JKSK ボランティアバス参加者)  
116「“生ごみエネ”カフェ順調」多田千佳(東北大学院農学研究科准教授)  
117「育てた菜種油 商品化」持立和歩(相馬農業高校2年)  
118「自然生かし 町にぎやかに」小田嘉子(ジュピターテレコム仙台メディアセンター)  
119「地域の宝物 図鑑にズラリ」及川奈七見(宮城県美術館)  
120「現地で見て、考え、議論を」増倉陽一(早稲田大学2年)  
121「進む津波対策工事に違和感」塩野崎佳子(月刊誌「きらめきプラス」名古屋支部)  
**2015年(1月9日～12月25日)**  
122「交流豊かにガーデン作り」平田千早子(三幸学園仙台こども専門学校専任講師)  
123「再生へ“出来ること”探る」小山脩(南相馬メンタルヘルス対策講座参加)  
124「“小高で生きる”情熱 感銘」山田好恵  
125「地域づくりの想い語る」大津京(有限会社マイティー千葉重)  
126「福島と韓国つなぐ白い糸」菅野友美(いわきおてんとSUS 企業組合)  
127「双葉の復興は未来への鏡」箕輪弥生(環境ライター)  
128「未来に進む決意の場に」平田千早子  
129「万葉の里から人形発信」和泉ひで子(民芸品創作クラブ“けや木塾”代表)  
130「南相馬で力強く生きる」川西由美子  
131「気軽に相談 子育てカフェ」近藤能之(よつば保育園副園長)  
132「福島の思い乗せた電源車」島村守彦  
133「都内に福島県民の拠点」番場さち子  
134「高齢者に寄り添い、支え合い」門馬まりえ(廣野町議会議員)  
135「地域支える基盤は農業」松本幸子(いわきおてんとSUN 企業組合)  
136「体験発信し未来に貢献」眞野美加(せんだいプロジェクトチーム)  
137「高校生の挑戦 反響呼ぶ」佐藤望叶(もか)(宮城県宮城野高校3年)  
138「町民憩いの場 再開」吉田恵美子  
139「未来へ伝える 思いの種」吉田恵美子

140「首脳夫人たちと苗植え」吉田恵美子  
141「東京の福島人サポート」番場さち子  
142「悩み聞くサロンの役割」番場さち子  
143「被災3県の編み物交流」番場さち子  
144「シェアする喜び実感」ティツィアナ・アランプレセ  
(FCA ジャパン株式会社マーケティング本部長)  
145「気仙沼の四季ふりかけて」齋藤由布子(一般社団法人 IkiZen 代表理事)  
146「米への愛 あられに込め」齋藤由布子  
147「七夕飾りをリメイク」齋藤由布子  
148「自分の足と目と耳で」中田哲也(農林水産省統計部勤務)  
149「参加型の交流 今後も」東 桂(JKSK 会員)  
150「”いい綿“つくりを追求」松本幸子  
151「かかわり方“ 家族“に提案」松本幸子  
152「妊婦、乳幼児へも支援を」吉田穂波  
(国立保健医療科学院主任研究員・産婦人科医)  
153「皆で植樹 防災緑地に」大和田順子(NPO 法人 JKSK 理事長)  
154「母子のケア 事例を調査」吉田穂波  
155「和やか古民家事務所」松本幸子  
156「避難道整備の署名提出」太田美智子  
(いしのまき寺小屋事務局長、海、みらい！事務局長)  
157「イネ掛け”ほんによ“復活」柏木智帆(元神奈川新聞記者フリーライター)  
158「地域に学ぶ被災地ツアー」稲葉雅子(ゆいネット/たびむすび代表取締役)  
159「まちのにぎわい取り戻せ」吉田恵美子  
160「被災地訪問 二つの考え方」稲葉雅子  
161「塩分控えめ 気仙の恵み」齋藤由布子  
162「完熟 幻のササニシキ」齋藤由布子  
163「三陸の山海を次世代に」山内明美(大正大学人間学部准教授)  
164「つながり咲く“はなかふえ”」広畑裕子  
165「南三陸産ワインへの道」山内明美  
166「板橋の綿 広野町に里帰り」横山れい子(NPO 法人いた・ネコ・ネット理事長)

167「感謝編み込んだ贈り物」番場さち子  
**2016 年(1 月 8 日～12 月 20 日)**  
168「海山と生きる分水嶺の民」山内明美  
169「シイタケへの思い胸に再起」佐藤昭子(キノコハウス代表取締役)  
170「農産品 もうひとつの柱」佐藤昭子  
171「消費者の信頼を再び」吉川成美  
(早稲田大学早稲田環境学研究所講師 たかはた共生プロジェクト副代表)  
172「自給自足でつながる」吉川成美  
173「産消提携は世界を巡る」吉川成美  
174「障がい者が力を合わせて」富永美保  
(JDF 被災地障がい者支援センターふくしま NPO 法人しんせい)  
175「心にかかる雲 取り払う」溝口あゆか(一般社団法人ハートレジリエンス協会理事長)  
176「一層 被災地に寄り添って」木全ミツ(NPO 法人 JKSK 会長)  
177「心が折れないように」藺田綾子  
178「樹の贈り物で地域再生」大和田順子  
**「東北復興日記」は「東北まだまだ復興日記」として継続！**  
179「戻った教え子 旅立ちの春」番場さち子  
180「一番の礎は”マンパワー“」番場さち子  
181「東電と活動し本音再確認」番場さち子  
182「囲わず築いたコミュニティー」太田美智子  
183「そっと見守った 子どもの行動」太田美智子  
184「建設的な話し合いの場を」太田美智子  
185「地域の絆で石巻ブランドを」齋藤由布子  
186「スープセットに地元の素材」齋藤由布子  
187「支援に感謝の”縁むすび“」齋藤由布子  
188「広野町民の新事業を応援」吉田恵美子  
189「いわきの杉材から逸品」吉田恵美子  
190「希望の灯り ネパールに」吉田恵美子  
191「南三陸のワカメ 飼料に活用」山内明美  
192「周辺環境への配慮大切」山内明美

- 193「問われる被災地の自治力」山内明美  
 194「“おやこ食堂”で心も満腹に」番場さち子  
 195「避難指示解除も平穏遠く」番場さち子  
 196「日々の出来事 カレンダーに」番場さち子  
 197「相馬地域での活動 一冊に」細田満和子(星槎大学副学長)  
 198「震災通じ地球規模の共感」細田満和子  
 199「地域再生へ ビジョン共有」大和田順子  
 (宮城大学事業構想学研究科博士後期課程)  
 200「幸せな社会」信頼“が鍵”大和田順子  
 201「心の復興は置いてきぼり」太田美智子  
 202「安全で高品質 鳴瀬のカキ」齋藤由布子  
 203「チョコで包む 福島の味」齋藤由布子  
 204「過疎地の医療 未来を考える」番場みち子  
 205「震災で気付き ともった光」吉田恵美子  
 206「その人らしく生き生きと」吉田恵美子  
 207「かけがいのない出会い」番場みち子  
 208「個人の「協働」地域の力に」細田満和子  
 209「放射能正しく知り堂々と」番場さち子  
 210「放射能リテラシー必要」細田満和子

2017年1月～

#### 4、河北新報社での連載

河北新報社は、東京新聞の「東北復興日記」連載の趣旨に賛同し、2013年1月から週1回寄稿を転載（2013、1、～2014年12月日）(100回)

#### 5、「東北復興日記」の海外発信

東京新聞の快諾を得て、2014年10月19日からJFS(Japan For Sustainability)「持続可能な幸せな未来へ向かう日本の動きを世界に発信する」(枝廣淳子主宰)を通して、「東北復興日記」を月1回連載することにより、復興の今を海外に紹介。

